

トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト 令和7年度の取組みについて

滝下 麻耶（北海道十勝総合振興局保健環境部環境生活課自然環境係）

永田 拳吾（環境省大雪山国立公園管理事務所上士幌管理官事務所）

トムラウシ南沼野営指定地（以下、「南沼野営指定地」）は、大雪山国立公園特別保護地区内に位置し、多くの高山植物が一面に咲き乱れる美しい景観が広がる一方で、長年にわたって深刻なトイレ問題を抱え、登山者から「日本一汚い幕営地」と揶揄されてしまうほどの状況であった。

本問題について、「トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト」（以下、「南沼プロジェクト」）と称する取組みが、平成29年4月に開始された。以来、南沼プロジェクトでは、関係行政機関や山岳関係団体等が協働し、南沼野営指定地の環境改善や携帯トイレ普及などの各種取組を推進している。本稿では、令和7年度における南沼プロジェクトの主な取組みについて紹介する。

南沼プロジェクトの立ち上げや、過年度の取組み状況については、これまでのフォーラム寄稿を参照いただきたい。

【1. 携帯トイレ配布ボックスの継続設置】（北海道 十勝総合振興局）

令和7年度も、南沼プロジェクトの一環として、トムラウシ短縮登山口（以下、「短縮登山口」）に無人の携帯トイレ配布ボックスを設置し、携帯トイレの持参を忘れた方や、南沼野営指定地にトイレがないことを知らなかった方でも、協力金（携帯トイレ1個当たり500円）を支払うことで、携帯トイレを入手できる取組みを実施した。

協力金はプロジェクト事務局である十勝総合振興局環境生活課で回収し、携帯トイレ補充の原資としている。

令和3、4年の取組では1個当たりの協力金は396～398円と、目標とする500円には及ばない状況であったが、令和5年度は過去2年を大きく更新し、1個あたり511円を記録、令和6年度は1個あたり586円を記録した。

今年度は1個あたり1,465円を記録し、協力金は昨年の3倍近い金額で過去最高となった。この要因としては、携帯トイレの総配布数が前年の約半数となっており、携帯トイレを持参する登山者が増えたことが理由の1つとして考えられる。

また、回収金額が多く集まったことも協力金が過去最高となった要因であり、引き続き協力金活動を継続できるよう更なる普及啓発に取り組んでいくこととする。

トムラウシ短縮登山口 携帯トイレ配布ボックス 協力金回収実績（確定値）

設置期間：令和7年6月9日（月）～令和7年10月1日（水）

総配布数（個）	回収金額（円）	協力金／個（円）
72	105,484	1,465

（参考：令和6年度 配布数 153個、協力金／個 約586円）

参考 携帯トイレ回収数（単位：個）

	7月	8月	9月	10月	合計
短縮登山口	457	298	164	2	921
温泉登山口	138	135	13	3	289
計					1,210個

（参考：令和6年度 回収数 1,242個）

【2. 野外し尿痕跡調査】（環境省 上士幌管理官事務所）

南沼プロジェクトでは、平成 28 年度以降、南沼野営指定地におけるトイレ問題の改善状況を把握するため、野外に放置されたティッシュ・大便（以下、「痕跡」）を回収し、それらの数と位置を記録する調査を継続実施している。

また、令和 5 年度からは植生への踏み込みを極力避ける観点から、ドローンを活用した遠隔調査を導入した。

● 令和 7 年度の回収実績

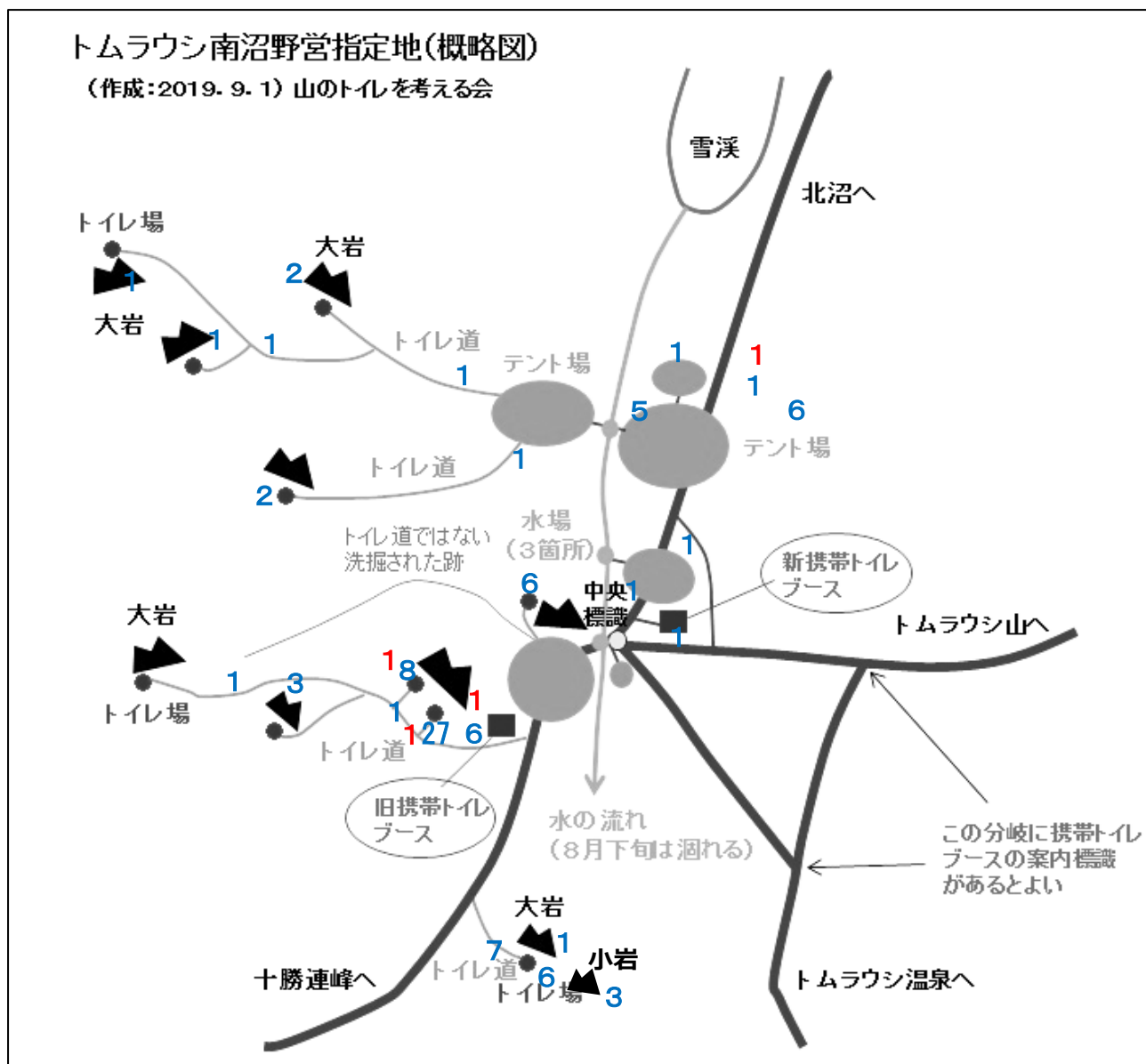
日付	時間帯	回収数	備考
7 月 16 日	05:00	2	
9 月 30 日	15:00	2	
計		4	

● 過去の回収実績

年度	日付・回収数							計	最大値
H28		7/2(土)	7/26(火)				10/1(土)	49 以上	30
		不明 全数回収	30				19		
H29	6/28(水)	7/15(土)	7/26(水)	7/30(日)		8/14(月)	9/16(土)	43	17
	6	2	6	5		17	7		
H30	6/25(月)	7/24(火)	7/25(水)	7/28(土)	8/6(月)	8/12(日)	9/16(日)	38	13
	1	13	2	1	5	6	10		
R01		7/4(木)	7/23(火)			8/12(月)	9/14(土)	13	7
		0	0			6	7		
R02			7/16(木)				9/16(水)	14	9
			5				9		
R03		7/1(木)	7/28(水)		8/9(月)	9/2(木)		16	6
		6	4		3	3			
R04	6/28(火)						9/26(月)	4	2
	2						2		
R05		7/5(水)					9/21(木)	5	4
		4					1		
R06		7/3(水)					9/19(木)	5	5
		0					5		

※平成 30 年度までは山のトイレを考える会等の協力を得ながら実施。令和元年度以降は環境省単独で実施。

- 野外し尿痕跡位置図（※赤字：令和 7 年度 青字：平成 30 年度～令和 6 年度）



【令和 7 年度調査の総括】

- 近年の調査結果を踏まえ、トイレ道に戻りつつある植生への調査員の踏み込みを極力避ける観点から、ドローンを活用した野外し尿痕跡の遠隔撮影を計画したが、強風、そのほかの理由により十分な撮影ができず、徒歩により調査した。
- 初回調査 (7/16) では、旧携帯トイレブース横トイレ道から直近の大岩でトイレ痕を確認、回収した。十勝岳連峰方面への縦走線から南に分岐するトイレ道、野営指定地中心にある大岩の周囲、野営指定地のロープ際を探索したが、トイレ痕は確認されなかった。
- 2 回目調査 (9/30) では、ティッシュが北沼方面岩陰と旧ブース裏の 2 箇所で見つかった。
- 6 月から 9 月にかけて本野営指定地で撮影されたテント数は合計 497 となり、昨年から微増、野外し尿の数は継続して低いままとなった。